II 調査経過

1 概　　要

第7・8・11次の発掘調査は，特別史跡「平城宮跡」のうち，奈良市佐紀町字寺前で，昭和36年から昭和38年にかけて実施した。調査地域は，宮域中央付近北よりの場所で，その大半は6ABO 区の東半部にあたり，6ABN・6ABB 区の一部を含んでいる。

6 ABO区の現地形

6ABO 区の東半部は，A～D・F・G の地区からなる (Fig. 1)。現在の地形は，南に向つて一筆ごとにわずかにさがる水田で，東南の D の水田とそれに東接する 6ABB 区はさらに一段低くなつている。すでに『平城宮発掘調査報告Ⅱ』*で報告した西半部は，この東半部と対称的に，西南に向つて低くなる傾斜地であり，6ABO 区全域についてみれば，中央付近がもつとも高くなつている。この地域の北には，佐紀中町の部落があつて，地形はゆるやかに高くなり，丘陵地帯に達する。南は，通称一条通りに面して民家が数棟東西にならんでおり，この部分は北の水田より約 0.5 m 高くなつている。

第7次調査

第7次調査は，昭和36年7月12日から昭和37年2月10日にかけて，6ABO-D・F・G 地区と 6ABN-K 地区で実施した。発掘面積は，6ABO 区で 31.7 *a*, 6ABN 区で 3.2 *a*, 計 34.9 *a* である。

6ABO 区の調査は，第5・6次調査地域に隣接するG地区から開始し，ついで逐次F・D地区におよんだ。この調査では，すでに第5次調査で推測していた 6ABO 区西半部と東半部との官衙地域としての性格の類似性を追求し，第5次調査地域南部で発見した3層にわたる遺跡の層位的に存在する範囲を確認するなどがおもな課題であつた。調査の結果，G地区北部では数層の整地層を認めたが，F地区では層位的な事実は検出されず，D地区は地山が東へさがるかなりの傾斜地であつて，それを埋めて造営がおこなわれていることが判明した。また，この地域の南を限る形勢を示すものに，SD130 と SD267 があり，いずれも西半部で延長部分または類似遺構を検出している。これは，東半部が西半部と共通性をもつ官衙地域であると推定する一つの根拠となつた。建物遺構では，さきに一部を検出していた SB200 が，桁行7間・梁行5間の建物で，この地区最大の中心的な建物であることが考えられた。また，柱間がせまく，掘立柱穴が小形のものや，小礎石を用いた類があり，これまでに発見した第Ⅱ—3期の遺構と類似するものとして注意された。建物のほかで特に著しい遺構は，SE311 と SE272 の2個所の井戸である。これらは，大形であること，多量の遺物を埋没していたこと，銭貨や木簡および出土状況から年代を推定しうることなどの特色をもち，とくに，奈良時代末期と平安時代初期の遺物編年の基準になる資料を得ることができたのは大きな収獲であつた。また，建築群については，6ABO 区の他の部分と同様に，3期にわたる造営を認めた。古い第Ⅰ期に属すべき

* 以下『平城宮報告Ⅱ』と略称する。

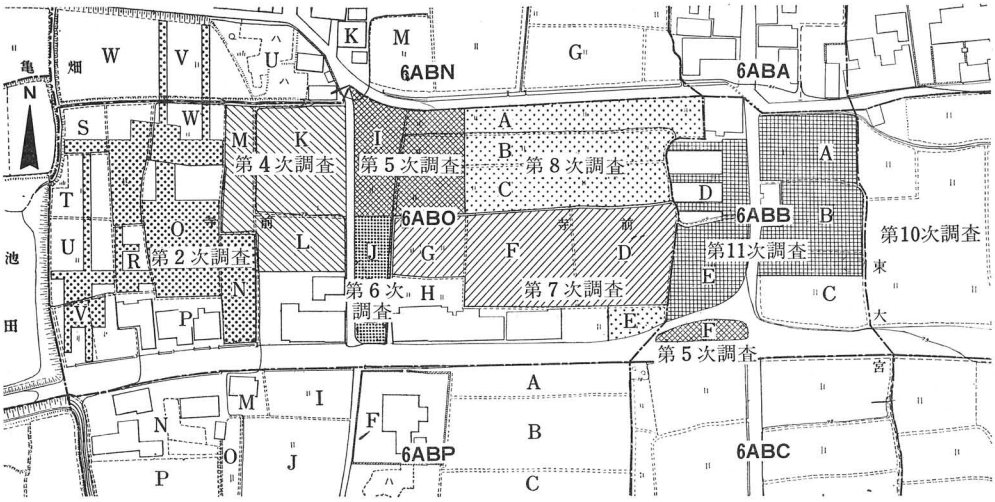

Fig. 1　発掘経過および地区図

遺構がほとんどないことも同じであつた。発見した主な遺構は，掘立柱建物17棟・柵1条・井戸2個所などであつた。

同時に実施した 6ABN-K 地区の調査は，家屋新設のための史跡現状変更申請にともなう事前調査であつた。この地域は，6ABO 区の北を東西に走る道路に北接し，これまでは調査できなかつた部落密集地に近い部分であつた。調査の主眼も，この一段高くなる地域の地下の遺構状況を知ることにあつた。発掘の結果，全域にわたつて，礫まじりの固い地山が水田床土直下から発見されたが，遺構はほとんどなく，南の 6ABO 区で検出していた SA233 の延長部分も認められなかつた。したがつて，この地区は 6ABO 区とは性格の異なるものであるとみられた。顕著な遺構が存在しなかつたので，調査終了後，現状変更が認められ，まもなく家屋が建設された。

第8次調査

第8次調査は，昭和37年2月10日から5月14日にわたつて，主に 6ABO-A・B・C 地区で実施した。発掘面積は 28.8 *a* で，この地区の調査をもつて，6ABO 区の発掘可能地域の調査はほぼ完了したことになる。

A・B・C 地区の西端部分は，すでに第5次調査で発掘し，南に接する F・D 地区は，第7次調査で発掘している。調査は，この2回の調査によつて判明した事実を手懸りにして開始することができた。調査の結果，調査地域の南西部においてこれまでに一部を検出していた SB 200・201・317 の全貌をあきらかにし，これらが 6ABO 区東半部の各造営期における中心的な建物であることを確認した。また，東部では，南の D 地区で検出した SD337・338 の北延長部があり，それらを埋めて造営がおこなわれており，この溝が宮の造営当初あるいはまたそれ以前のものと考えられた。東端では，SA350 築地の残存基部を検出し，6ABO 区の官衙は，この築地で東を限られて，一まとまりになることを確認した。検出した主な遺構は，掘立柱建物15棟・築地・柵2条などである。

この調査では，同時にE 地区の発掘をおこなつた。E 地区は，昭和33年9月に行政調査を実施した 6ABP-A 地区の北にあたり，その際検出した土塁状遺構と関連あるとみられる花崗岩の礎石をもつ遺構と，その南北に各1条の溝を検出した。南の溝は深く，多量の土器，瓦類を投げこんだ状態で発見した。

第11次調査 第11次調査は，昭和38年11月29日から6月20日にわたつて，6ABB-A・B・C・D・E 地区と6AAO-L・N・O 地区で実施した。今回報告する地域は，このうちの6ABB-D・E 地区 14*a* であつて，のこりの地区は次回に報告する予定である。6ABB-D・E 地区は，6ABO 区の東に隣接する幅 30m ほどの南北に連なる水田で，すでに第5次調査で南の F 地区を調査し，その結果によつてこれらの地区を道路状の部分と推定していたところである。調査では，SA350 の南延長部を確認し，その東約 16m の位置で南北に走る溝 SD572 を発見した。この間には顕著な遺構はなく，道路状の部分とする推定をうらずけた。なお，第10・11次調査で 6AAO 区において発見した市庭古墳（SX500）の周濠南西隅部分を，D 地区北東部で確認し，外堤内面に敷かれた葺石を検出した。

2 調 査 日 誌

第7次発掘調査 昭和36年7月～37年2月

6ABO-D・F・G 地区

7・12～27 耕土除去。

7・28 地区設定。

7・29～8. 1 床土除去。

8・ 2 G 地区西端で，床土直下に南北方向の掘立柱列を確認。第5次調査で検出した柵 SA233の南延長部分であろう。

8・ 3～13 床土除去。

8・16 G 地区 D面（第Ⅰ期盛土上面）露出。中央部で，5×3 間東西棟建物を検出（SB327）。西北部で，SB205 の南妻を検出し，7×2 間南北棟であることを確認。SB205・SB327 と重複して，SB206 の南6間分を検出し7×2間南北棟建物であることを確認。この3棟は柱穴の重複状態から，SB205・SB206・SB327の順に新しい。SB206 の西側柱穴列には南北に細長い新しい土壙(SK355)が重なつている。

8・17 G 地区では第Ⅰ期盛土（D 層）の残存は北半の一部に限られているようである。西から E 面（地山上面）まで掘り下げ始める。東北隅で，東西にならぶ2個の柱穴（SB200）と，その南に1個の柱穴（SB201）を検出。これで SB200 は南北4間，SB201 は南北5間になる。

8・18 G 地区全域 E面露出。SB327 は一まわり小さな柱穴からなる東廂がつき，身舎内の西から3間目に，間仕切りとみられる2個の小柱穴を検出。SB327の東に4個の南北柱穴列検出(SB323)。G 地区遺構検出終る。

8・19 F 地区遺構検出開始。北部で，SB200 および SB201 の南側柱列，各3間分を検出。

8・21 SB200 の南に梁間2間の東西棟建物（SB 314)を検出。東側柱列検出で SB323 は 3×2 間南北棟であることを確認。中央西よりに，方約 7m の土壙を発見。土壙中央にほぼ方 2m の黒色泥土がある。井戸か（SE311)。その南に，F・G 地区にわたる梁間2間の東西棟建物（SB321)を検出。

8・22 SE311 の掘りかた全周を検出。

8・23 F 地区北端で，SB200 の東妻を確認。7×4 間東西棟，4面廂付の建物である。

8・24 SB201 の東妻を追求し，桁行7間となる。この建物は 7×5 間東西棟で，南北に廂が付き，さらに南面には孫廂のつく大規模なものになる。SB314 は 5×2 間東西棟建物である。あらたに SB200・SB201 東南部と重複して東西にならぶ3個の柱穴を検出（SB317)。柱穴の重複状態では，最も古いものである。SB314 の東に南北柱穴列を検出（SA304)。

8・25 前日検出した SA304 は，F 地区を南北に通り，北部で SB317 の柱穴と重複し，SA304 が新しい。F 地区南部で，東西の石敷溝を検出。一部では石敷はないが，同一線上にくぼんだ溝状遺構が F 地区全域にある。6ABO 区西半部のものと連らなるらしい（SD130)。

8・26 SE311の東南に，3×3 間の建物2棟を検出（SB307・SB308)。

8・28 SB317 は桁行7間の東西棟になる。その東端と重複して，北にのびる梁間2間の建物を検出（SB299)。SB317 が古い。SB299 の南で東西 3 間分の柱穴列を検出（SB293北妻)。その東端柱穴と重複して南北柱穴列を検出（SB285)。SB285 が新しい。南東部で，東西の4個の柱穴列を検出（SB293 南妻)。

8・29 昨日検出した南と北の東西3間分の柱穴列は側柱列を検出して，7×3間南北棟建物の南北の妻であることが判明（SB293)。F 地区遺構検出終了。

8・30 D 地区遺構検出開始。SB285 は 5×3 間南北棟建物で，東に廂がつく。SD130 の石敷溝は，中央付近で石敷が終り，その東は素掘りの溝になり，その中にヒノキの樋を埋めこんであつた。暗渠になるのか。

9・ 1 東南部で，SD130 の南に 5×2 間東西棟建物を検出(SB268)。この建物と SD130 とに重複

して，南北にならぶ2個の柱穴を検出（SB269）。

9・2 南辺で検出した東西方向の溝（SD267）および SD130 を東へ追求。

9・4 中央付近で，東西約 6m，南北約 5m の土壙を検出。井戸か（SE272）。

9・5 SE272 より東は地山が下がり，この傾斜を褐色土で埋めたてている。SE272 の北に，東西方向の柱穴列を検出。

9・6 昨日検出した柱穴列は，南北2列となる（SB273 南廂）。

9・7 東北部で，東西にならぶ4個の柱穴を検出（SB273 北側柱列）。

9・8 SB273 は，南廂のつく 5×3 間東西棟建物である。F・G 地区南部の SB321 は東西7間である。

9・9 遺構検出終了。清掃・排水作業。

9・10～11 写真撮影。

9・12～13 実測準備。6ABO-E 地区耕土・床土除去。

9・14～15 実測。

9・16 第2室戸台風来襲。事務所・倉庫の被害大。

9・17～19 台風による被害個所修理のため発掘調査中止。

9・20 実測再開。

9・22～26 実測。

9・22 F 地区の SE311 の掘りさげ開始。

9・23 井戸の掘りかた中央の黒色泥土中から，先端を宝珠形につくり出した木材や瓦器が出土。井戸枠は残つていないが，中世の野井戸か。

9・25 SE311 井戸枠検出。井戸枠は2重になつており，内枠内で多量の遺物を発見。

9・26 遺物取上げ。多量の土器・木製品その他と共に木簡1点，隆平永宝1枚を検出。D 地区の SE272 の掘りさげ開始。

9・27 SE311 の遺物をとりあげると，内枠下には凝灰岩切石を並べており，さらに下は泥土となつている。外枠は古いもので，それを改造したのが内枠の井戸らしい。内枠引き上げ。外枠内部を掘り下げる。2段分検出（SE311A）。

9・28 SE311A の底には一面に礫を敷いておりその上面から木簡断片1点，人形1点，万年通宝・神功開宝各3枚と土器・木器・金属器などを検出。SE272 の井戸枠2段分を検出。

9・29 SE311A 井戸枠材引き上げ。実測・写真撮影。SE272 は4段分を検出。

9・30 SE272 の底に達する。底部 50cm ほどの堆積泥土中から，土器・木器などと共に，鎌と承和昌宝1枚が出土。

10・1 SE272 の井戸底の礫を取除くと，下に土器片を含んだ礫層があり，この礫層は井戸枠外にまで広がつている。先行する井戸があつて，検出したのはそれを改造したものだろうか。最下段の井戸枠が上3段より厚く大きいことも興味深い。

10・2 SE272 井戸枠引き上げ。最下段井戸枠には枘穴が二重にある。枠材実測・写真撮影。

10・5～20 埋めもどし。

10・24 作業員ストライキ突入。

10・26 ストライキ解決。埋めもどし再開。

2・10 埋めもどし完了。調査終了。

6ABN-K 地区

7・28～31 K 地区西半部耕土除去。地区設定。

8・1 床土除去。

8・2 地山面まで掘りさげる。遺構なし。

8・3 K 地区の東畦にそつて，幅 3m の南北トレンチをいれる。

8・4 東トレンチを地山面まで掘りさげたが，遺構なし。

8・5 清掃作業。写真撮影。

8・7 実測。

8・21 埋めもどし。調査終了。

第8次発掘調査 昭和37年2月～5月

6ABO-A・B・C 地区

2・10～16 耕土除去。地区設定。

2・17～28 床土除去。

3・1 床土除去の段階で，各所に柱穴や溝の存在が認められたが判然とせず，A 地区から地山面上で，遺構を探索することとする。A 地区東部では，床土直下が地山面である。東端で南北方向に平行に走る溝2条を検出。溝の間は約 3m で地山は高く残つている。築地跡か（SA350）。北端で東西に走る溝を検出。第4次調査で検出した溝 SD126 の延長部らしい。

3・2 SD126 を西へ追求。東部で 4×2 間東西棟建物（SB349）を検出。柱穴はいずれも浅く，中に数個の玉石を入れたものがあり，礎石を用いた建物らしい。

3・4 中央部で，SD126 の南に東西に並ぶ2列の柱穴列7間分を検出（SB364 北廂）。

3・5 SB364 は東西9間であることを確認。この西妻の西に南北方向の石敷（SD400）がある。中央西よりで南北に並ぶ3個の柱穴を検出。SA304 の延長部らしい。その西に柱穴1個がある。（SB213 東北隅柱）。

3・7 SB212 の北側柱列と，これに重複する SB213 の北側柱列，各々6間分を検出。いずれも 7×2 間東西棟建物であることが判明。

3・8 B 地区遺構検出開始。西部で，SB212・213 の南側柱列5間分を検出。それと重複して，梁間3間の東西棟建物を検出（SB413）。柱穴の重複状態ではこの建物が最も新しい。

3・9 SB413 の東妻を検出し，桁行5間となる。南廂の柱穴では自然石の礎石のあるものが3個ある。いずれも柱穴は礎石よりも深い。SA304 を3間分検出。SD400 の石敷は B 地区南辺で終る。A 地区で北廂を検出した SB364 の西南部を

検出。9×4 間東西棟南北廂つきの建物である。

3・10 SB364を東に追求。この建物の西第3間目より東の地域は地山がさがり，この傾斜部を褐色土で埋めたてている。遺構はこの盛土上で検出される。

3・12 SB364の東妻，SA350の南延長部確認。

3・13 C地区遺構検出開始。C地区東部も地山が低く，それを埋めた褐色盛土上に，南北方向に4個の柱穴（SB341 東側柱列）を検出。

3・14 C地区中央東よりに，9×3間南北棟建物（SB371）と，その東西で，南北方向に4個の柱穴と3個の柱穴（SB370 側柱列）を検出。

3・16 昨日検出した2列の南北方向の柱穴列は7×2 間南北棟建物の側柱列となる（SB370）。SB370 の西側柱列以西は地山が高くなる。C地区北部で東西に走る溝を検出。SD141の東の延長らしい。SB370の西に，梁行2間の南北棟建物5間分を検出（SB299）。SB299 と重複して，SB317 の東妻を検出。梁行4間である。

3・17 SA304 を4間分検出。SB200, SB201 の東妻を検出。

3・19 SD141, SB200, SB201 を西に追求。SB317 の西妻を検出。7×4間東西棟建物で，4面に廂がつく。C地区西よりの部分は，第5次調査で検出したC・Dの両面が続いているのを認める。

3・20 遺構検出ほぼ完了。清掃開始。

3・21 清掃。

3・22 清掃。B・C 地区東部の盛土上で柱穴を検出。2棟の東西棟建物（SB340・SB341）となるらしい。

3・23 清掃・排水作業。

3・24～25 写真撮影。

3・26～27 実測準備。

3・28～4・1 実測。

4・ 4 E地区地区設定。遺構検出開始。

4・ 6 E地区北よりに，約2mの間をおいて東西方向の2条の溝がある。溝の間は礫を含んだ黄褐色土がやや高く残つており，築地かと思われる（SA436）。

4・ 7 黄褐色砂質土上に，ほぼ1m大の礎石を2個東西に7.5mおいて検出。南側の溝は深く，遺物がかなり多い。

4・10 遺構検出終る。清掃。

4・11 写真撮影。実測準備。

4・12 実測終了。

4・ 5～5・14 埋めもどし，調査終了。

第11次発掘調査 昭和38年2月～5月

6ABB-D・E 地区

2・19～20 E地区耕土除去。地区設定。

2・21～23 床土除去。

2・25 西の床土直下は一帯にバラス面となる。

2・26 東にバラス面を追求。南で東西の溝を検出（SD573）。

2・27 東で南北方向の溝を検出（SD572）。バラス面は，この溝の西岸まで続き，東岸以東ではなく，地山が高くなつている。

3・ 1～ 2 SD572 を掘り下げる。

3・ 4 バラスを除去し，地山面上で遺構追求。地山面低し。

3・ 5 西北隅で東南に走る溝 SD337 を検出。

3・ 7 東北部で市庭古墳（SX500）の周濠外堤西南入隅を検出。

3・ 8 古墳周濠掘り下げ。外堤内斜面の葺石の残存良好。

3・ 9 写真撮影。

3・28～4.4 実測。

4・ 5～4.15 埋めもどし。

4・16 D地区東端に幅8mの南北トレンチ，北端・中央・南端に幅3mの東西トレンチを各々入れる。

4・17～20 南北トレンチで溝 SD572 と SX500 の周濠西岸を検出。

4・21 北の東西トレンチで土塁 SA350 検出。

4・22 中央・南の東西トレンチでは遺構なし。

4・23 写真撮影・実測開始。

4・24 実測終了。

4・26～5・3 埋めもどし。調査終了。